

# 情報社会論の存立機制

張江洋直・メディアと社会

---

## ●要約

本稿では、日常生活の世界において存立している信憑性構造と関連づけながら、「情報社会論」の存立機制を論じている。

情報社会論が語られてから、すでに30数年が経過している。それは、当初より現在まで、くりかえし「情報社会」が到来することを告げる。いい換えれば、それは社会変動への〈予言〉といってよい。たしかに、この30年間に私たちの諸技術は大きな進歩を遂げ、また、それらは人びとの日常生活に普及している。現在語られるユビキタスコンピューティングに典型のように、それら普及された諸技術によって、私たちの生活も大きな変化をみせている。そうであるにも拘わらず、情報社会論は未だにその到来を物語り続けている。それは、なぜなのだろうか。むろん、それは諸技術が進歩し変化するからではない。

私たちがみるかぎり、「情報社会論」つまり「新しい技術」に触発されて展開されてきた諸議論は、社会的世界に生きる人びとがもつ〈社会変動への予兆〉という、人びとが現実規定をなす信憑性構造のゆらぎに、その存立機制の基盤を有している。

本稿では、「情報社会論の存立機制」を焦点化するために、第1に、社会学における現代社会論を、続いてM. マクルーハンのメディア論を中心に論じ、そのなかから技術決定論を含む多くの決定論的な思考を超える途を呈示したい。

## ●キーワード

情報社会

情報社会論

メディア論

技術決定論

社会決定論

信憑性構造

日常生活の世界